

子供たちも 人権の大切さを訴えています

子供たちは学校や地域で人の命の重みや人権の大切さを学んでいます。子供たちが人権学習で学んだことを、気持ちを込めて書いた人権作文を紹介します。

ぼくの友だちわーちゃん

野原小学校4年 水本悠也さん

ぼくのクラスには、保育所時からいっしょの「わーちゃん」という友だちがいる。保育所時からいっしょにしゃべってくれるけど、ほかの人は分かりにくい。

わーちゃんは、ボールで遊んだり、おいかけっこが好き。わーちゃんは、いつも楽しそうな顔をしているから、そばにいてとても気持ちがいい。わーちゃんは、きらいな食べ物もがんばって食べるようになった。保育所の時は、牛乳がきらいで泣いてギャーギャーと大きな声を出してさげんでいた。でも、今はきらいな物もぼくが、

「わーちゃん、これ食べ。」
と、声をかけると、いやそうな顔をしながらでも、がんばって食べる。かわいそうに思う時もあるけど、スキキライが多いから、食べすぎらいにならないように、ちよっとずつがんばって食べてほしい。声をかけて食べてくれた時は、ぼくもとってもうれしい。

遠足の時、

「ご飯、いっしょに食べよう。」

と、さそってくれた。ぼくは、とつてもうれしかった。わーちゃんといっしょにご飯を食べたら、わーちゃんがいろいろしゃべってくれて、とてもうれしかった。

「ご飯食べたら、おにぎりを食べよう。」

と、さそってくれた。そこで、いっしょで食べて二人でおにごっこをしていると、みんなが、

「やっほ。」

と、集まってきた。わーちゃんとみんなとおにごっこをして、楽しかった。わーちゃんもとても楽しそうだった。

また、わーちゃんはとてもやさしい。前に、ぼくが急におなかがいたくなつて保健室でねていた時、わーちゃんが来て、

「だいたいおなかが。」

と、顔をのぞきこんで心配そうにきいてくれた。ぼくは、わーちゃんがこんなにも心配してくれているんだなと思った。ぼくもわーちゃんのことを大事にしようと思った。

ぼくが、わーちゃんのことをとても心配したのは、運動会のリレーの時だ。四年生から、初めて運動場を一周するからだ。練習の時は、わーちゃんはちゃんと走れたけど、本番でもちゃんとコースを走れるか心配で、いっしょに横について走った。

「わーちゃん、がんばれ。」

と、応えんする声がたくさん聞こえたのがうれしかったのか、わーちゃんは、スキップをはじめたので、ぼくはびっくりした。よっぽどうれしかった。

ただと思う。そのため、練習の時よりおそくなったけど、一周走れてよかった。

だけど、こまることもある。それは、置いてある物をもって動かすことだ。水とかが、いつもの場所とちがっていたら、人のものでもわーちゃんが思っているいつもの場所に動かしてあるので、ちよっとこまる。前までは、ふで箱もまだ使うから開けて机の上に置いておいたら、次に見るとなくなっているのびっくりした。わーちゃんが、机の中に入れてくれたのだった。初めはびっくりしたけど、わーちゃんはいつも通りきちんとなっていないと気持ちが悪いからなんだなあと分かってきた。

体育の時も少しこまる。サッカーの時、同じチームのボールでもとつてくるからだ。とられた友だちは、

「なにやっほ。」

と、おこっているかのような感じでいらついていた。その時ぼくは、

「まだルールがあんまり分かってないからしゃないやん。やり方を教えてたつたらええやんか。」

と、言いたかったけど、その時は、何て言ったらいいか分からなくて言えなかった。言えよかつたと思う。今度、もしわーちゃんが、いやなことを言われていたら、勇気を出して、わーちゃんの気持ちを伝えるようがんばりたいと思う。

最近、勉強中も別の教室ではなくて、ぼくたちといっしょに勉強するのが多くなった。ちがうプリントを集中していっしょうけんめいやっている。分からないことがあると、大きな声で、

「分からな。」

と、さげ。みんな考えて、答えが分かるよまた続きをがんばっていた。わーちゃんは、みんなといっしょにいたいんだなあとと思う。ぼくたちも、わーちゃんのことをもっと分かかっていきたいと思う。

これからも、ずっとわーちゃんと仲のよい友だちでいたい。

五條市人権教育研究会

人権作品集「くらしをつづる」2006年度第40集より